（様式１）　　令和　3　年度

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	2894400155		
法人名	特定非営利活動法人　権利擁護あさひ		
事業所名	グループホームぴあ出石		
所在地	兵庫県豊岡市出石町福住317		
自己評価作成日	令和　4年　3月　5日	評価結果市町村受理日	令和4年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	ps://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/28/index.php?action_kouhyou_pref_topjigyosyo_index=t

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　福祉市民ネット・川西
所在地	兵庫県川西市小花1-12-10-201
訪問調査日	令和　4年3月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

少人数の共同生活ならではの個別支援、その人の個性、特技、趣味など、個人の強みに着目し、レクリエーションや作業、イベントに力を入れています。生活上の家事全般等できることは、お手伝いという形で関わっていただきながら、生活している実感、自分たちの暮らしを感じてもらっています。利用者のできることを見出し尊重し、利用者が居心地良いと感じられる対応に努めています。また、共生社会づくりの目標のために、地域との交流を深めてきました。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所は、出石町の中心部よりやや離れた住宅街に、家庭的な平屋建ての1ユニットを運営している。地熱を利用して建てた館内は、年間を通じて一定の温度に保たれており、利用者も過ごしやすい。コロナ下といえども、利用者のいつも通りの生活を大事にして、さまざまな制限のあるなか、人の多い所を避け出かける機会を多く取り入れた。事業所内でのコロナワクチン接種を、市内のグループホームとしてはいち早く実施し、かかりつけ医の協力の下に1回目2回目は事業所で、3回目は少人数ずつ医院に出向いて接種を受けた。カンファレンスには利用者にも参加してもらい、本人の想いを聴き取り、利用者が出来る事を職員が先取りしない支援に努めている。人生の先輩である利用者の自尊心を傷つけないように心がけた声掛けをし、利用者それぞれの役割を見つけ出すなかで、やりがいを感じる生活が送れるよう配慮している。今後とも利用者中心の暮らしが継続されることを希望している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）		1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	（1）	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定例会、カンファレンス、勉強会等の話し合いの場で、ケアの方向性の統一を図る。また、利用者の気持ちを大切に支援を心がけている。	法人と事業所の理念の他に、「職員のこころえ８か条」を額装し玄関に掲げている。事業所の理念と、職員目標は広報誌に掲載し対外発信している。、毎月の定例会議毎に、利用者の計画に沿ったケアの統一を図り、訴えのない利用者の表情からその想いを読み取ることに留意した支援が出来る様に、申し合わせている。	
2	（2）	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事が中止になる中でも、事業所内でのイベントや外出、天気のいい日には、歩いて通院やドライブを行う。また、野菜のおすそ分け等をしていただいている。	コロナ下で自治会活動が全て中止で交流が無いなか、通院の途中で出会う人と話したり、医院内で地域の人と交流する機会を見つけている。コロナ下でも、地域住民から野菜や花、近くの家族からお米が届く事がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の祭り、イベントで、認知症についての理解に努めている。		
4	（3）	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、現状報告、意見交換をして運営に活かしている。思いとして、近隣の事業所への相互参加での情報交換が本年は、できればと思います。	書面会議が多いなか、対面での会議を２回開催できた。対面で開催した際には活発な意見交換をし、会議の情報を参考にして地域の独居老人支援に役立てたいと、委員から話があった。管理者は、コロナが収束すれば他事業所の会議に相互に出席し合い交流の場にしたいと考えている。	運営推進会議に、事故・ヒヤリハット報告をされてはいかがか。
5	（4）	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の来所 運営推進会議の場 1月に監査実施	今年1月、市の実地指導があり、指導の下に書類整備などに努めた。介護相談員の事業所訪問が3か月に1回あり、面談記録が提出され、市を交えての3者面談のなかで介護相談員から見た利用者情報を得ることができている。運営推進会議に、地域包括が参加しており参考意見をもらっている。	
6	（5）	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束等適正化検討委員会を開催 全職員が理解し取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会は、管理者、介護職員、看護師、調理員等で構成し、3か月毎に会議を開催して議事録を残している。管理者は身体拘束ゼロを目指して定期的な研修会を開催し、周知徹底を図っている。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束等適正化検討委員会にて、虐待防止の勉強会を開催し学習に努めている。日頃から利用者の尊厳を守り、共に支え合っていくことが、虐待防止に繋がると考えている。	委員会は、身体拘束適正化委員会と兼ねており、研修は神戸市の虐待防止研修動画を活用している。スピーチロックなどがあれば相互に注意し合ったり、話し合ったりしている。管理者はシフト作成時に出勤や休日の希望を聴き、職員がストレスのない勤務が出来るよう心掛けている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定例会や運営推進会議にて議題にしていき今後、理解の啓発を図りたい。	現在、家族が成年後見人になり、制度を活用している利用者が1名あるが、職員の成年後見制度や日常生活自立支援事業に関する認識が十分とは言えない。	地域包括などに依頼し、職員研修や運営推進会議などで制度に関する紹介をされてはいかがか。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前には見学や説明を行い、不安や疑問、意向を聞きながら納得を得ている。 契約時には十分に説明している。	契約前に見学してもらい、要望などを聴きながら納得を得たうえでの契約となっている。契約時に、面会時間や通院、看取りについての質問があり、丁寧に説明している。万一の場合の延命措置や回復のために希望する医療行為に関して、契約時点での意向を確認し文書化している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話による家族への随時の報告の際や、介護計画を送った際などに家族から要望や意見を聞く機会を作っている。面会後には、ご家族とコミュニケーションを図り、思いをくみ取るように努めている。	家族からの要望は、利用者個々のものがほとんどである。家族には毎月発行の広報誌で、写真と共にイベントや誕生日会などの様子を報告している。利用者の体調の変化時には、電話で連絡している。面会希望者があれば、感染状況に留意しながら、オンラインや風通しの良い場所での面会を実施している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやケアカンファレンスや連絡ノートを活用して意見の出やすい仕組みを作っている。また、定例会にて検討、対応している。	職員からは、浴室内に手すりの取り付け、園庭での夏場のイベント用として大型テントの購入、トイレ内の個別の籠にパッドを入れておき効率化を図るなどの提案があり、取り入れている。浴槽に浸かれない利用者を、シャワー浴だけでなく、二人介助で浴槽に浸かってもらう支援を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一回の運営会議、職員定例会をもち職場環境の整備に努めている。また自己評価を職員に提出してもらい向上心につとめている。給与水準については、まだ低いと感じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定例会、利用者へのケアカンファレンス等、職場内研修を行い、ケアの向上に努めている。又、グループホーム協会などをを通じて他のグループホームの内容について、共有化をはかってきたが、コロナ過のため止まっている。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上記協会の同業者との交流や豊岡市内の地域密着型事業所交流会などを通じてネットワークづくりをしてきたが、相互訪問などできていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は安心していただくため、傾聴に努め、寄り添う声かけ、要望にできるだけ添いながら、孤立させない支援を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学時、ご家族に困っていることや、要望に添えるかどうかの話し合いを行い、詳しく施設の説明を行う。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行いながら、全職員、チームケアで支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分ができることや役割など、人の役に立てるという満足感を持っていただく。声かけにも目線を合わせ、同じ人という立場で話すようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	テレビ電話の導入や、面会についても、禁止ではなくルールをお知らせし実施している。イベント、クリスマス会で、プレゼントや手紙をお願いして、家族の絆、つながりを大切にしている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人さんの要望をお聞きして、外出イベントを企画したり、お住まいのある地域の訪問を行っている。	昨年度レク委員が計画して好評だった自宅訪問を、今年度も要望があり実施した。年賀状書きを年末に支援し、家族からの電話取次ぎは、都度行っている。携帯電話を使用している利用者もある。理美容は床屋だけでなく、要望に応じボランティアや職員がカットするなどそれぞれの要望に応じている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が声かけを行い、季節の話題の提供や、ニュースについて話し合いをしたり、レクリエーションにて、皆さんが楽しめる雰囲気作りを行っている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなられた方への弔事には、参加させていただくようにしている。その他、退所された方の具体的な経過フォローはできていない。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（12）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	難聴でコミュニケーションが取りにくい利用者には、丁寧に言葉かけをして意向を確認している。帰宅願望があるときや不穏状態が続く場合は、根気よく付き添い利用者の話に耳を傾け、思いをくみ取るように努力している。	入所後にまだ馴染み難い利用者は、ゆっくりと時間をかけ関わる事で落ち着けるよう努めた。利用者の訴えに耳を傾けて聴くことに徹し、個々の支援に取り組んでいる。コミュニケーションが取りにくい利用者の場合は、表情を見逃さず想いを汲み取れるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族との話し合いでの情報や他のサービスの情報などを取り入れ、本人の意向にそうように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	コミュニケーションを通じて心身状態の把握に努めている。また、毎日のバイタル表や日誌、個別ケア表などを活用し、現状の把握をしている。		
26	（13）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別カンファレンスを行い介護計画に活かしている。ご家族の要望、意見を聞き取り、本人さんに説明、会議に参加していただいている。	利用者担当の職員を中心に、毎月のモニタリングと理学療法士の個別ケアプログラムをチェックし、カンファレンスは利用者参加で行い要望や意見を聴く機会にしている。介護計画書に沿った個別ケアプログラムが実行出来た日はシールを貼り、支援経過記録用紙とモニタリング用紙に記入し、ている。ケアマネが6か月毎に介護計画を見直し、家族に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に記入し、特記事項は別欄や、職員共有ノートに記入し情報共有している。介護計画の見直しは、各利用者担当がケアマネージャーに相談しながら変化に対応している。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域活動支援センターでの交流 他施設との職員研修体験		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その人らしい生活の継続のため、地域での暮らしの楽しみの一つとして、地域イベントの参加支援をしている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くにかかりつけ医があり看護師の付き添いを得ながら通院している。ご家族への経過報告や疑問点の解消にも努めている。	直ぐ近くの医院が実質的なかかりつけ医になっており、利用者の殆どが毎月１回、通院している。従来からのかかりつけ医や、皮膚科、整形外科などの他科を受診している利用者もある。いずれも看護師が付き添うことが多く、受診情報などを毎月の「支援経過」で家族に報告し、家族の安心に繋がっている。歯科医による往診の体制が出来ていない。	必要に応じて往診してくれる歯科医と協力体制を築かれることをお薦めします。職員が口腔ケアについて歯科医から学び、日々のケアに活かされたらどうであろうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、利用者の健康に留意し、適切に受診や服薬管理を行っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはその方の情報を提供し、退院前には、ご家族や、看護師、相談員と連絡を取り情報を得て、受け入れ体制を整えています。	直近の１年間に入退院事例が１件あり、協力医療機関に入院した。転倒からの骨折で手術を要し、３週間の入院となった。コロナ下、着替えを届けるだけで、病棟訪問は出来なかった。退院前のカンファレンスには、ケアマネと看護師が参加出来、情報共有しながら退院後の受け入れ態勢を整えた。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入院等重度化の際は、事前の急変時及び終末期に関する意向確認をもとに再度、ご家族、医療関係者に今後の方針を確認している。	①急変時や終末期での「延命措置に関する意思確認」 ②「看取りケアについての説明及び同意の内容」を文書化し、①で、希望する医療行為を尋ねるとともに、②で、施設内で出来る医療やケアについて説明し、家族と話し合って同意の確認を順次取りつつある。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	この一年応急訓練は未実施		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昨年3月、防災計画書を策定し市へ提出する。8月水害を想定した避難訓練を実施する。運営推進会議で報告。地域の方のご協力を仰ぐ。	水害発生を想定した避難訓練として、指定避難所へ利用者を車で搬送し、所要時間（片道20数分）を測定した。有事の際には、事業所所有の3台の車で、全利用者の搬送が1回で可能である。火災発生時の夜間想定訓練が出来ていない。同地域内の同法人の事業所とコロナ感染時の対応に関して実習研修を行った。	夜間の火災発生を想定した訓練を実施して下さい。消防署から水消火器を借りた初期消火の訓練も必要です。前庭に避難した利用者の見守り協力を、自治会を通じて近隣住民に依頼されたらどうであろうか。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	同性介助に努めています。羞恥心の配慮や、所持品の取り扱い、お一人おひとりの習慣や意向を尊重している。	利用者には、基本、名字にさんを付けて呼び掛けている。利用者がトイレに入った際には、見守っている職員がトイレのドアにぶら下げてある札を「使用中」にし、他者が不用意にドアを開けることがないようにしている。事業所の職員目標として、「ユマニチュードを参考にしたケア」を掲げており、利用者目線でのケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴しながら、思いやりをもち、自己決定できやすい選択肢を増やしていく、選びやすいように促していく。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	こまめな声かけや会話を通じて、心の奥の声なき声を感じ支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節、気温、天候に合わせた服選びや、外出等の整容も支援している。		

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理のお手伝いとして、具材を選ばれたり、切り方を考えてもらったりを職員とされています。食材は、生協や、地元の食材を食べていただいています。	日曜日以外は、3名の調理専門員が担当しており、日曜日は弁当が届けられる。調理を手伝う利用者もあり、事業所の菜園で栽培しているプチトマト、ゴーヤ、ピーマンなどが献立に色を添える。ホワイトボードに書かれた今日の献立を、当日の当番の利用者が読み上げている。広い園庭にテーブルを並べて、食事会を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各々の状態把握に努め、記録をみながらスタッフへ引き継ぎをしている。元気であり続ける支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔チェックを行い、見守りも行いながら、健康な状態を保つように支援している。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意の訴えのある時には、必ずトイレ案内を行い、トイレでの気持ちのいい排泄を心がけている。排泄のタイミングは、24時間シートで観察して適宜の誘導を心がけている。	自立してトイレで排泄している利用者が7名あり、車椅子の利用者も職員が介助してトイレで排泄している。夜間用として、ポータブルトイレを置いている利用者もあり、自立での使用が困難な場合は、離床時にベッド際の光感知式センサーが反応するので、職員が訪室して必要な対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックシートで確認している。排便コントロールができるよう看護師の指示のもと個別のケアを心がけている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	柔軟にたいおうしているが、入浴につながらないときは、タイミングや、声かけの工夫で楽しんで入っていただけるように準備している。	週2回の入浴を基本としている。浴槽に安全に入れる様に複数方向に手すりを設置している。退院直後などで全介助が要る利用者の場合、シャワー浴から浴槽へと段階的に改善する様にしている。浴槽の湯は溢れるに任せており、2人が入浴すると、湯はほぼ入れ替わっている感じである。季節湯としてゆず湯を楽しむこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間等不安で休まれないときは話を傾聴したりと安心してもらえる支援をしている。生活リズムをつくり、昼夜逆転を予防していく。		

自己	第三者	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により服薬箱のセット 服薬チェックにより確実な服薬を心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	担当を中心とした個別プログラムに沿った支援や、趣味の継続支援を行っている。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出イベントの企画や季節の行事、買い物など個々の外出は行っている。	コロナ下でも季節を感じてもらえるイベントとして、利用者全員が車に分乗して花見に出掛けて花見弁当を楽しんだり、毎年、近隣の神社へ初詣に出掛けている。地元の空港見学も喜ばれた。広い園庭が格好の外気浴の場となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出イベントなどで、お金を使える楽しさを感じていただける支援を考えます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年、年賀状を送っている。 申し出があれば、自由に使っていただいている。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただくための飾り付けや、花や、カレンダーを飾っている。 長い廊下も生活リハビリとして活用している。	園庭に机を並べて、食事会や演奏会を楽しんでいる。一直線に延びた長い廊下の壁に、事業所と同法人事業所の毎月の広報誌や写真が大きく貼り出されている。広いデイルームの隣の以前、畳敷きだった小部屋をフローリングに改造して一体的に使っている。加湿機能付き空気清浄機が１台と、加湿器が2台設置されているが、それらの加湿効果が利用者の居室内にまで行きわたっているかには、若干の不安がある。	

自己	第三者	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になりたいときには、居室に戻られて、くつろがれたり、庭のベンチへ行かれたり、気の合った利用者さん同士で話されるときの配慮もしています。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、馴染みのある品物を持参していただき、ご家族で配置して、居心地良く過ごしてもらう支援を行っている。	綺麗に着色された円形の板がドアの横に貼られ、利用者の名前が大きく書かれている。全室、フローリングで、収容能力が大きいクローゼットがあるので、室内はスッキリと整頓されている。事業所からは、照明、空調機、ツインファン換気扇、防炎カーテン、小机、温湿度計が準備されており、ベッドは各利用者がレンタルしている。懐かしいドーナツ盤が聴けるプレイヤーを置いている利用者もあり、お祝いに貰った色紙や銀杯、家族の写真などを並べ、それぞれにとって心地よい空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全のためフェンスはロックしますが、庭へは自由に出入りしてもらい、日光浴や洗濯干し等で、庭を活用している。また、安心安楽に過ごせるように、お一人おひとりに合った環境を心がけている。		

（様式2）

事業所名：グループホームぴあ出石

目標達成計画

作成日：2022年3月31日

優先順位	項目番号	現状における問題点・課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		個別ケアの取り組み	利用者一人ひとりに応じた支援を提供する。	個別ケアの時間をつくり、利用者と一緒に生活している実感や安心感、楽しみの時間をつくる。	12ヶ月
2		チームで統一された支援を行う	カンファレンスで多方面から、利用者へのアセスメントを行い、個別計画に反映する。	スタッフ間での報告、連絡、相談の時間を持ち、統一されたケアに努める。	12ヶ月
3		介護技術や知識の向上	学習会や、外部研修等での学びの情報共有で、職場の連携作りや知識向上を目指す。	定例会後やカンファレンス後など学習会の開催や、外部研修等での学びの情報共有で、職場の連携作りをする。	12ヶ月

（様式3）

サービス評価の実施と活用状況（振り返り）

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】

実施段階		取り組んだ内容 （↓該当するものすべてに○印）	
1	サービス評価の事前準備	○	①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
		○	②利用者へサービス評価について説明した
		○	③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
			④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
			⑤その他（　　　　　　　　　　　　　　）
2	自己評価の実施	○	①自己評価を職員全員が実施した
			②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
		○	③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
		○	④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
			⑤その他（　　　　　　　　　　　　　　）
3	外部評価（訪問調査当日）	○	①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
		○	②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
		○	③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
			④その他（　　　　　　　　　　　　　　）
4	評価結果（自己評価、外部評価）の公開	○	①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
		○	②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
		○	③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
		○	④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
			⑤その他（　　　　　　　　　　　　　　）
5	サービス評価の活用	○	①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
		○	②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した（する）
		○	③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した（する）
		○	④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ（取り組む）
			⑤その他（　　　　　　　　　　　　　　）